

1 救急の総括

① 活動概要

令和4年中における救急の活動概要は、出動件数が9,835件、搬送件数が8,816件、搬送人員が8,854人である。

前年と比較すると、出動件数が1,568件(19.0%)の増、搬送件数が1,172件(15.3%)の増、搬送人員が1,163人(15.1%)の増となっている。

過去5年間を比較すると、令和元年まで増加。令和2年は大きく減少(要因は新型コロナウイルス感染症の影響によるものと考えられる)。令和3年から再び増加している。

② 出動状況

出動件数を事故種別ごとに前年と比較すると、件数的に最も増加したのは急病で1,220件(23.2%)の増、次いで一般負傷で240件(19.1%)の増となっている。件数的に最も減少したのは火災及び自損で12件で火災は(36.4%)、自損は(12.6%)の減となっている。

出動件数を時刻別・事故種別でみると、それぞれのピークは、急病で8時～12時、交通は16時～20時、一般負傷は16時～18時、転院搬送は10時～14時となっている。

③ 搬送状況

搬送状況を程度別でみると前年比で、軽症が4,086人(785人増)、中等症が4,336人(423人増)、重症が432人(45人減)となっている。

年齢区分別でみると、新生児を除く全年齢で急病が最も多くなっている(新生児は転院搬送が最も多くなっている)。

収容医療機関は、管内が3,869人、管外が4,985人で全体の56.3%が、管外の医療機関へ搬送されている。

④ 所要時間

所要時間の平均は、入電から現場到着までが10.1分(前年比較で0.4分延伸)、病院収容までが42.0分(前年比較で4.4分延伸)、総所要時間が84.8分(前年比較で3.6分延伸)となっている。

⑤ 隊員の行った応急処置

搬送人員8,854人中、8,853に対し応急処置を実施している(実施率99.9%)。

実施回数が最も多いのは、観察活動の血中酸素飽和度測定、次いで血圧測定、心電図測定の順となっている。

⑥ 不搬送件数

不搬送件数は全体で1,019件となっている。不搬送理由は「辞退(到着後)」が最も多く604件、次いで「拒否」の128件、続いて「明らかな死亡」の126件となっている。

⑦ 応急手当の普及啓発活動

令和4年中は、応急手当普及員講習を1回、上級救命講習を1回、普通救命講習を28回及び救命入門コースを56回実施し、合わせて1,929人に対し講習を実施している。

(事故種別の凡例)

1. 火 災 火災現場において直接火災に起因して生じた事故。
2. 自然災害 暴風・豪雨・高潮・地震等の自然現象に起因する事故。
3. 水難事故 水泳中の溺者又は水中転落等による事故。
4. 交通事故 全ての交通機関相互の衝突及び接触又は単一事故。
5. 労働災害 各種工場・事業所・作業場等で就業中発生した事故。
6. 運動競技 運動競技の実施中に発生した事故。
7. 一般負傷 他に分類されない不慮の事故。
8. 加 害 故意に他人によって傷害等を加えられた事故。
9. 自損行為 故意に自分自身に傷害を加えた事故。
10. 急 病 疾病によるもの。
11. 転院搬送 医療機関から医療機関への搬送。
12. その他 医師・医療資器材等の搬送及び、その他上記に分類不能のもの。